

芸術科（音楽）「音楽Ⅰ」学習指導案

令和7年 月 日（ ）第 校時

1 題材名 音楽と絵画との出会い ～ムソルグスキー「展覧会の絵」～

2 題材の目標

(1) 「展覧会の絵」の音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解する。

(知識)

(2) 「展覧会の絵」の音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)

(3) 「展覧会の絵」の音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 教材 組曲「展覧会の絵」 (ムソルグスキー作曲 ラヴェル編曲)

4 題材について

(1) 生徒の実態

音楽選択者の14名は、明るく賑やかで、生徒同士の関係も良いため、協働的な学習に積極的な取組が出来るクラスである。歌唱や器楽の表現活動に意欲的に参加する一方で、鑑賞活動においては、音楽的な知識や経験の差が大きく、自分の感じたことを言語化することに苦手意識をもつ生徒も少なくない。そのため、発言が消極的になったり、感覚的な表現にとどまったりする傾向が見受けられる。しかし、着目すべき音楽を形づくっている要素を明確にすることや、他者との意見交換、ワークシートの活用等によって、自分の考えを整理し、感じたことと音楽を形づくっている要素の働きとを関わらせながら、感じたことを言葉で表現する力が徐々に育ちつつある。

(2) 教材について

組曲「展覧会の絵」は、ロシアの作曲家ムソルグスキーが、友人であった建築家・画家のガルトマンの遺作展覧会からインスピレーションを受けて作曲されたピアノ組曲である。各曲がガルトマンの遺した絵との関わりがあり、曲間に繰り返し登場する「プロムナード（散歩）」によって、聴き手は展覧会の絵を歩きながら鑑賞しているような気分を味わうことができ、絵画という他の芸術との関わりを手掛かりに、音楽のイメージを捉えやすい作品である。また、さまざまな編曲者による多様な音楽表現、文化や歴史的背景との関わり等、音楽と社会との関わりを学ぶことにも適している教材である。

(3) 指導にあたって

本題材では、絵画から受ける印象や情景が、音色の違いから捉えやすい管弦楽版（ラヴェル編曲）を用いる。原曲の魅力に加え、1学期に学んだラヴェルのオーケストレーションの工夫を感じ取り、多様な音楽表現を味わえるようにしたい。第1～2時では、音楽の特徴と絵画とを比較しながら鑑賞し、感じたことと音楽を形づくっている要素の働きとの関わりを捉え、第3時では、プロムナードと各曲とのつながりを考える活動を通し、作品全体の構成や作曲者の意図について学習する。さらに第4時では、これまでに学んだ内容を踏まえ、「キエフの大門」を鑑賞し、音楽とその背景となる文化や歴史との関わりを理解し、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えることを目指す。MetaMoji Classroom を用いたワークシートや音源再生を活用し、自分のペースで鑑賞活動を行えるよう配慮するとともに、グループ活動では、音源を再生しながら意見交換を行い、仲間と音楽のよさや美しさを味わいながら学びを深められるよう指導したい。本題材を通じ、自らの考えについて、根拠をもって他者へ伝える力を伸ばすとともに、芸術と社会背景や歴史との関わりにも目を向けられるようにしたい。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

B 鑑賞

ア（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

（イ）自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

イ（イ）音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解すること。

[共通事項]（1）

（本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」、「構成」）

6 題材の評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 「展覧会の絵」の音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。	思 ①「展覧会の絵」の音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 思 ②「展覧会の絵」の音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	態 「展覧会の絵」の音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（本時3／4時間）

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）		
		知	思	態
1	<p>◎展覧会を想像しながら楽曲を聴き、音楽と絵画との関わりに関心をもつ。</p> <p>●音楽と絵画との関わりに着目して鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グノーム」を聴いた印象が、音楽の特徴とどのように関わっているのかを考える。 ・ガルトマンの絵をもとに作られた曲であることを知る。 ・展覧会の絵から絵へと歩くイメージを持って冒頭のプロムナードを鑑賞し、「グノーム」との違いを比較する。 ・ガルトマンの絵を見て、どのような曲想が合うかを想像しながら、「卵の殻をつけた雛の踊り」「サムエル・ゴールデンベルクとシュミイレ」を鑑賞する。 <p>●「展覧会の絵」の背景を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムソルグスキーが「展覧会の絵」を作曲した背景をワークシートにまとめる。 	↓	↓	↓
2	<p>◎音楽の特徴と絵画との関わりを感じ取りながら鑑賞し、曲全体の構成を理解する。</p> <p>●各曲の特徴を整理し、組曲としての構成を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「古城」「牛車」「テュイルリーの庭」の3曲を鑑賞し、どの絵を表している音楽かについて考え、音楽の特徴とともにワークシートに記入する。 ・音源を確認しながらグループで意見交換し、全体で共有する。 ・全曲のタイトルと絵をワークシートで確認し、楽曲の全体像を捉える。 ・タブレットで個別に聴きたい曲を鑑賞し、絵の特徴と音楽表現との関わりについて感じたことをワークシートに記入し、意見交換する。 	↓	↓	↓
3 (本時)	<p>◎各曲とプロムナードとの関わりを感じ取りながら鑑賞し、プロムナードの役割を考える。</p> <p>●プロムナードの曲想の変化を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各プロムナードを聴き比べ、曲想の違いを考えさせる。 ・グループで「それぞれの曲間には、どのプロムナードがふさわしいか」について音源を聴きながら話し合い、理由を整理する。 ・作曲者の意図やプロムナードの役割について考える。 ・実際の曲順で鑑賞し、プロムナードの役割を確認する。 ・ワークシートにまとめ、全体で共有する。 	↓	◆ワークシート ① ◆観察	↓
4	<p>◎音楽と他の芸術や文化的・歴史的背景との関わりを理解し、楽曲の魅力についてまとめる。</p> <p>●「キエフの大門」を鑑賞し、音楽と文化的・歴史的背景との関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キエフの大門」を鑑賞し、音楽で何を表現しているかを考える。 ・ウクライナやロシアの文化的・歴史的背景について学び、門が象徴する意味と音楽の響きを関わらせて聴く。 <p>●「展覧会の絵」について、自分や社会にとっての意味や価値を考え楽曲を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を振り返り、「展覧会の絵」の魅力についてワークシートにまとめる。 ・全体で共有し、多様な芸術表現の豊かさを再認識する。 	◆ワークシート ② ◆観察 知	◆ワークシート ② ◆観察 思	◆ワークシート ◆観察 態

8 本時の学習

(1) 目標

各曲とプロムナードとの関わりを感じ取り、曲全体の構成や作曲者の意図について理解する。

(2) 展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法	要素
1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○これまでの学習を振り返り、絵と音楽の特徴との関わりをタブレットで確認しながら、曲の一部を鑑賞させる。 ○曲全体の構成を確認し、絵と絵の間を結ぶプロムナードに着目させる。		
それぞれの曲にふさわしいプロムナードを探そう～プロムナードの役割って何だろう？～			
2 各プロムナードを鑑賞し、各曲に繋がるプロムナードをグループで考える。	○各プロムナードを聴き比べ、曲想の違いをワークシートに記入させる。 ○それぞれの曲間には、どのプロムナードがふさわしいか、各グループで音源を聴きながら話し合い、理由を整理させる。	思 ①「展覧会の絵」の音色、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 ◆ 観察・ワークシート	音色 旋律 構成
3 プロムナードの役割について考えをまとめ、全体で共有する。	○実際の曲順でプロムナードを鑑賞し、作曲者の意図について考えさせる。 ○プロムナードの役割について自分の考えをまとめ、全体で共有する。		
4 本時のまとめとして、授業を振り返る。	○本時の学習を振り返り、次時の学習意欲を喚起する。		

(3) 評価及び指導（手立て）

（思考・判断・表現）

A（十分満足できる）と判断される具体的な状況	プロムナードと各曲との繋がりや作曲者の意図について、曲想や音楽の特徴と関連付けながら、根拠を明確にし、自分の考えを具体的にワークシートに記入している。
B（おおむね満足できる）状況を実現するための具体的な指導（手立て）	プロムナードと各曲の繋がりや作曲者の意図について、他者との意見交換を通じ、自分の考えに近いものをワークシートに記入するように促す。